

これからの「英語表現」が目指す方向

加賀田 哲也

国際化が加速化していく昨今、国内においても多民族化、多文化化、多言語化が進展しています。したがって、学校教育においては、今後、さらに異なる言語や文化的背景を持った人々といかに適切にコミュニケーションを図るかが問われてきます。つまり、これまで以上に「ことば」による表現能力の育成が急務となります。殊に、英語は世界の共通言語であることは払拭できないことから、英語教育における表現力の育成は多方面から期待が寄せられています。加えて、大学入学試験の在り方も見直され、「高等学校基礎学力テスト」および「大学入学希望者学力評価テスト」という新しい2つのテストが導入されます。前者は生徒の基礎的な「知識・技能」を中心に、後者は「(論理的・批判的)思考力・判断力・表現力」を中心に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を測っていきます。

今回、私は「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」のテキスト *DUALSCOPE English Expression I* と *DUALSCOPE English Expression II* の編集に携わることになりました。編集過程で留意した主な点は、まずは「旅行」「クラブ活動」「未来生活」「世界遺産」など生徒たちの英語で表現したい気持ちをそそるような題材を選定したこと、次に、「自分の夢について述べる」「クラスメイトに感謝のメッセージを送る」「企画を提案する」「問題を提起する」など学習者が主体的に取り組めるような意味ある言語活動を設定したこと、さらに、アクティブ・ラーニングの視点から協働的に楽しく学びを深めるように工夫したことです。

「DUALSCOPEⅠ」では、文法事項を和文英訳・文整序だけではなく、その文法事項を含む表現がもつ機能や使用場面と関連付けて最終的には表現活動を通して、習熟、定着を旨としています。また、論理の展開や表現の方法を学び、プレゼンテーションに必要な基本的な表現力の養成も行っています。したがって、「DUALSCOPEⅠ」では、大雑把に言

えば、「知識・技能」を中心とする「思考・判断・表現」するための基礎づくりの学習と言えます。一方、「DUALSCOPEⅡ」では、「DUALSCOPEⅠ」の学習内容を発展させるとともに、まとまりのある英文を読んだ上で、その内容について生徒自身が考えや意見等を発信したり、統計資料等をもとに推論し主体的にプレゼンテーションやディスカッションを行う、また、ある論題の是非についてディベートを行ったりします。まさに生徒たちの「思考、判断、表現」をフルに活性化させる内容となっています。

21世紀における教育のキーワードは「共生」であると感じています。グローバルなレベルでは、いかに国家間で共生していくか、ローカルなレベルでは、いかに国内、地域内、学校内、学級内で共生していくかが課題となります。多様な国籍を有する生徒たちが在籍する学級も少なくありません。英語をツールとして、子ども達が自分の言いたいことや相手に尋ねたいことを主体的に表現し、かかわり、つながっていきける英語教育を実現できることを切に願っています。

(大阪教育大学教授)

DUALSCOPE English Expression I 著者